

— 私たちは、豊かな明日を創造する技術を提供します —

## 株式会社 開発調査研究所



所在地：〒062-0054 札幌市豊平区月寒東4条10丁目7番1号  
 TEL : 011-852-5053  
 FAX : 011-855-1298  
 URL : http://www.kaichoken.co.jp  
 従業員：74名  
 設立：昭和39年4月  
 代表者：代表取締役社長 渡辺彰彦



閑静な住宅街の中の広々とした敷地に建つ社屋



緊急調査時

大雨に伴う基礎地盤洗堀により通行不能となった橋梁の緊急調査



竣工後

被災から2年後に新設橋梁が竣工



平成29年10月 観楓会にて



社会奉仕活動としての地域清掃



雪崩が発生した道路の緊急調査



水辺空間の散策路



平成28年激甚災害の橋梁被災箇所緊急調査



(株)シン技術コンサル撮影

ダム建設に伴う付替道路



大雨による斜面崩壊箇所の緊急調査



特殊車両による橋梁点検の様子



社内技術発表会の様子



観楓会で九連結三輪車を楽しむ職員たち

### これまでの歩み

当社は昭和39年4月24日に設立され、北海道命名150年目の節目の年となる平成30年で、創業54年目を迎えます。

昭和39年は、日本はまさに高度経済成長期の真っただ中にあり、新幹線や高速道路などの社会資本整備が急ピッチで進められていた時代でした。また、この年には、建設コンサルタントとして設計業務（調査、計画、設計）を行うための登録制度が建設省で制定されました。

当社もこのような時代背景の中、測量調査を行う7名の職員でスタートしました。

翌年には測量業者登録を行い、その後北海道の公共事業予算の伸びとともに受注も拡大し、建設コンサルタントとして業務（調査、計画、設計）を行うために、社内体制の整備と技術力の向上を図りながら、昭和47年には地質部門での建設コンサルタント登録、昭和52年に地質調査業者の登録と総合建設コンサルタントに向

けての基礎体制を地道に築いてまいりました。現在は8部門に建設コンサルタント登録し、北海道の中堅コンサルタントとして奮闘する毎日です。

平成29年8月には社屋別館を建て、執務環境の改善も進めております。また、観楓会（紅葉狩りの季節に行う親睦会）など、役職員の福利厚生や地域清掃などの社会奉仕活動にも積極的に取り組んでおります。最近では若手職員の比率も高まりつつあり、サークル活動を通じて職員同士の交流も活発です。

### 当社の特徴と実績

当社は、北海道内の道路や河川の計画・設計、道路構造物・河川構造物の計画・設計、地質や環境の調査などを主体に行っております。

総合建設コンサルタントとしてさらに成長するために、技術部門の組織横断的な連携を強化し、社内全体の意思の疎通も十分図りながら、総合技術力の提供に努

めております。

平成16年には防災部門を立ち上げ、異常気象などによりいつ発生するかわからない災害に対しても、機動力を生かして迅速に対応できる体制を整えました。

また、北海道においても高度経済成長期に集中的に整備された大量の社会資本が、今後更新の時期を迎えます。このように社会資本のメンテナンスの重要性が高まっている中、その適切な維持管理の手法としてアセットマネジメントが注目されています。当社では老朽化が進む橋梁、法面、道路附属物などの道路ストックの損傷状態を把握するための点検業務についても力を入れ、危険性の有無を的確に判定し、最新技術による維持補修方法の提案を行っております。

こうした努力を積み重ねた結果、発注者からは優秀業者表彰や優秀管理技術者表彰を受けるなど、当社の技術力に対し高い評価をいただき、災害対応と道路構造物の長寿命化検討は、現在、当社の2枚看板として

経営の柱となっております。

### 未来に向かって

北海道の各地域においては、人口減少・少子高齢化による財政制約・労働力減少がより厳しさを増す中、一方では自然災害の激甚化・多発化、施設老朽化などの新たな課題に直面しており、地域の暮らしや生産活動を守るためのニーズが高まっています。経営環境が大きく変わろうとしている現在、当社は今後の経営戦略を見極める重要な時期を迎えております。

このため、総合建設コンサルタントとして当社の掲げる経営理念のもと、地域社会のニーズの変化を的確に捉え、必要な技術を提供し、それを安定収益に結びつけることにより、企業価値の向上に取り組んでまいりたいと考えております。

(文：代表取締役社長 渡辺 彰彦)